【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(特別支援学校 玉城わかば学園)

1 目指す姿

(1)目指す学校の姿	子どもたち一人ひとりが尊重され、自立と社会参加を目指して生き生きと活動できる学校	
(2)	育みたい資質・能力(育みたい児童生徒の姿)	<ul style="list-style-type: none"> ○よく学び、よく遊び、社会参加を目指して主体的に取り組む子ども ○自他の命を大切にし、互いを尊重しながら生き生きと活動する子ども
	ありたい教職員の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育に関する専門性の向上に努め、保護者・地域・関係機関と連携・協働して子どものニーズや特性に応じた教育活動や地域支援を推進できる教職員 ○高い人権感覚や安全意識を持ち、児童生徒・保護者・地域から信頼される教職員

2 現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ○卒業後に必要な、自立や社会参加につながる確かな力を育ててほしい。 <p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたち一人ひとりの育った背景を理解し、個に応じた教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行ってほしい。 <p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域における特別支援教育の充実と推進のため、常にセンター的機能を発揮してほしい。 	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもたちを理解し、個に応じた適切な指導及び必要な支援を行ってほしい。 ○子どもたちの一番の理解者でいてほしい。 <p><学校等の各機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別な支援が必要な子どもたちへの指導について、支援、助言、情報発信してほしい。 	<p><保護者></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校あるいは関係機関と連携し、密接な協力関係をもって、家庭における指導を進めてほしい。 <p><学校等の各機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別な支援が必要な子どもたちへの全校的な支援体制を確立してほしい。 ○指導する教員の専門性を向上させ、発達障がいを含む知的障がいのある児童生徒の指導を充実してほしい。
(3)前年度の学校関係者評価など	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器を活用した学びは有効であるが、対面でのコミュニケーション能力が低下してしまわないよう、バランスよく組み合わせた学びが重要である。 ○教職員が年次休暇の取得を思うようにできないことは地域の小中学校でも同じである。また、教職員不足も続いている。そのような中で業務の改善や精選、総勤務時間の縮減に引き続き取り組まなければならないが、何より働く環境にゆとりが必要ではないか。疲弊を防ぐためにカウンセリング等の活用も勧めてみてはどうか。 ○保護者アンケートや教職員アンケートの結果から、改善課題や今後の取組に反映し、課題解決に向けて取り組んでほしい。 	
(4)現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○新教育課程を実践しながら、キャリア教育の視点も含め、小・中・高の系統性を検証する。 ○児童生徒が学習場面でICTを主体的に活用できるよう、指導の充実を図り、機器の管理体制を整える。 ○児童生徒の発達段階に応じた「いのちや性について考える学習」、「児童生徒が主体的に活動する人権学習」についての実践を継続する。

	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員一人ひとりが危機管理の意識を高め、災害時への備えを進める。 ○センター的機能の一層の充実に向けて、地域の保幼小中高からのニーズに応える。校内支援の充実においても、研修やOJTを一層充実させ、全教員の支援に係るスキルアップを目指す。 ○行事や授業、交流及び共同学習、各種説明会など様々な機会を通じて地域との接点を増やす。積極的HP等での広報活動を行い、学校理解につなげる。 ○総勤務時間の縮減と教職員の負担感の軽減に向け、少しでもゆとりを感じられるよう、業務のバランスや体制を整備する。
--	-------	---

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p><1 個別最適な学びの充実と教育課程の整備></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒が、持てる力や可能性を伸ばし、自立と社会参画のために必要な力を身につけるため、一人ひとりに応じたきめ細かな指導・支援を進める。 ○教育課程を整備し、教科学習及び自立活動の指導の充実を図る。 <p><2 キャリア教育の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自立と社会参画に必要な力を身につけられるよう、組織的・計画的なキャリア教育を進める。 ○自己選択・自己決定できる力を高め、一人ひとりの状況や発達段階に応じたキャリア教育を進め、地域生活への円滑な移行を図る。 <p><3 自己肯定感を涵養する教育の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分が認められているという実感が持てるよう、自己肯定感を育む学習や児童生徒の発達段階に応じた自他の命の大切さに関する取組を進める。 ○児童生徒が主体となって活動する児童生徒会を尊重し、お互いに認め合い・励ましあい・支え合える人間関係を創り上げる取組を通して、実践行動力を育成する。
学校運営等	<p><4 信頼される学校づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者が参画する学校運営を進めるとともに、地域と協同した学習を推進する。 ○教職員が研修に参加する機会を保障し、教職員の専門性の向上をめざす。 ○「信頼される学校であるための行動計画」に基づき、不祥事の未然防止やコンプライアンス研修を計画的に実施することで、教職員のコンプライアンス意識を高める。 <p><5 安全・安心な学校づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然災害に対して、児童生徒が自分の命は自分で守ることができるよう、防災教育の充実を図る。また、平時から実践的な避難訓練を実施し、災害時の学校安全の確保など防災対策を進める。 ○児童生徒が安心して登下校できるよう、通学路の安全確認や交通安全指導を行うとともに、様々な事故や事件の当事者とならないよう、防犯教育に取り組む。 ○組織的な対応ができるよう、危機管理マニュアルの点検を行い、実行性のある訓練や研修に取り組む。 <p><6 センター的機能の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> ○特別支援学校のセンター的機能として、小中学校、高等学校等への相談会等を実施し、南勢地域における特別支援教育の向上に取り組む。 ○教育相談や就学支援委員会では、関係機関と連携した支援体制の充実を図る。 <p><7 働きやすい職場環境づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員が児童生徒とじっくりと向き合える時間を確保できるよう、管理職がリーダーシップを発揮して、調査や会議、研修等の業務の見直しを推進し、業務の効率化を進める。 ○教職員同士が認め合い、いきいきと働ける居心地のよい職場づくりを進める。

4 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 個別最適な学びの充実と教育課程の整備	<p>1 個別最適な学びの充実と教育課程の整備</p> <p>(1) 本人および保護者の思いを反映した「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」に基づき、一人ひとりのニーズに応じたきめ細かな指導・支援を実践する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問の実施 1回 ・個別懇談会の実施 2回 ・各学部における検討会の実施 学期に1回 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実施済1回 ○ 実施済2回 	◎
	<p>(2) 教育課程の見直しにおいて小学部、中学部、高等部の連続性を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教務担当関係者等の検討会の実施 年2回 ・研修会の実施 1回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会において「連続性のある学び」について理解できた教職員 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実施済2回 ○ 実施済1回 ○ 達成 96% 	
2 キャリア教育の充実	<p>(3) 「教科等合わせた指導」の考え方について教職員の理解を促進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会の実施 1回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会において「教科等合わせた指導」の考え方について理解できた教職員 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実施済 1回 ○ 達成 95% 	◎
	<p>(4) 「自立活動の時間の指導」について共通理解を図り、指導内容を充実させる。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他校への視察 1回 ・研修会 2回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修会において「自立活動の時間の指導」について理解が進んだと回答した教職員の割合 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実施済 1回 ○ 実施済 2回 ○ 達成 98% 	◎
2 キャリア教育の充実	<p>2 キャリア教育の充実</p> <p>(1) 計画的・組織的なキャリア教育を進め、教職員および保護者が、小学部段階からのキャリア教育の重要性について理解促進を図る。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員を対象とした進路研修会を実施 2回 ・キャリア教育プログラムを活用した保護者向け授業公開の実施 2回 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実施済 2回 ○ 実施済 2回 	※

<p>3 自己肯定感を涵養する教育の推進</p>	<p>【成果指標】 ・授業公開後のアンケートにおいて「キャリア教育の理解が進んだ」と回答した小中学部の保護者の割合 80%以上 (2) 高等部において、生徒の適性を把握した進路指導を進め、希望の進路実現をめざす。 【活動指標】 ・高等部1年生において職業チェックリストの実施 1回 ・高等部1年生において校内実習の実施 3回 ・高等部2、3年生において現場実習の実施 2回 ・地域資源と連携した職場体験の実施 10回 【成果指標】 ・高等部1年生の校内実習後のアンケートにおいて「働くことのイメージを持つことができた」と回答した生徒の割合 80%以上 ・高等部2、3年生の現場実習後のアンケートにおいて「卒業後の生活イメージを持つことができた」回答した生徒の割合 80%以上 ・高等部3年生において9月時点における就労希望者全員の就労実現 100% 3 自己肯定感を涵養する教育の推進 (1) 学級や学校の中で、役割を分担して協力して取り組む機会を設定し、児童生徒が他者や集団、社会のために役立つことを実感できる取組を進める。 【活動指標】 ・各学部において達成感や成功体験を意識した運動会(体験活動)を実施する。1回 【成果指標】 ・小学部において、楽しかったと、がんばったと表現していた児童の割合 80%以上 ・中学部において、がんばった、やりきったと表現していたまたは感想を述べた生徒の割合 80%以上 ・高等部において、やりきった、仲間と協力して活動できたと感想を述べた生徒の割合 80%以上 (2) 他者と共によりよく生きようとする意識や生命を大切にしようとする体験的な学習を進める。自他の人権を守るための行動力を身につけるための学習に取り組む。 【活動指標】 ・テーマを設定した人権学習の実施 3回 ・発達段階に応じた性に関する学習の実施 2回</p>	<p>○ 達成 100% ○ 実施済 1回 ○ 実施済 3回 ○ 実施済 2年3回 3年1回 ○ 実施済 10回 ○ 達成 100% ○ 達成 83% ○ 達成 100%(4名) ○ 各学部実施済 1回 ○ 達成 小学部 100% ○ 達成 中学部 100% ○ 達成 高等部 100% ○ 実施済 3回 ○ 実施済 2回</p>	
改善課題			

<個別最適な学びの充実と教育課程の整備>

- 「教科等合わせた指導」の考え方について教職員対象の研修会を実施した。実施後は、指導している児童生徒がどの段階の位置なのかを確認することで、学習目標や内容が導き出されることなど、教職員が共通の理解を持つことができた。合わせて、「教科を合わせる」ことの意味や「教科」の視点を大切にすることの理解が進んだ。
- 自立活動の実践を進めるための視察を行った。視察で得られた内容を整理し研修会において全教職員へ報告した。自立活動の目標設定の導き方、学習グループの設定の考え方について共通理解を図ることができた。また、教職員一人ひとりがポスター発表に取り組むことで、自立活動の流れや手順の理解が浸透した。
- 「教科等合わせた指導」の確認をもとに、教科の視点にたった教育課程の見直しを進める必要がある。
- 教育課程において自立活動の位置づけを見直す必要がある。

<キャリア教育の充実>

- 高等部において地域の企業と連携した職場体験実習を計画的、組織的に進めることができた。体験実習において、生徒は就労の厳しさや社会人の方との接し方を実践的に学ぶことができた。
- 小学部保護者対象の懇談会において、キャリア教育の考え方について説明した。小学部で取り組んでいることが学校卒業後の生活につながるなど早期からキャリア教育を意識することの必要性を伝えた。
- 一般就労は4名と卒業生全体の21%であった。就労に結びつく学習内容の設定について、社会情勢や先進校の動向をふまえた検討が必要である。
- 引き続き保護者に学校卒業後のことについて積極的に考えてもらう機会を設定するなど、組織全体でキャリア教育を進める必要がある。

<自己肯定感を涵養する教育の推進>

- 各学部では児童生徒が輝けるよう工夫した運動会を実施した。実施後は児童生徒の様子や表情を読み取るとともに、感想を丁寧に聞き取った。どの学部も児童生徒が互いに認め合う関係づくりを進め、自分が必要とされているという実感が持てる実践であった。
- 性に関する学習では性に関する講座を開催し、自分も友だちも大切であることを確認することができた。外部講師の講演と学級で実施する学習をリンクさせることで、児童生徒の理解がより深まった。
- 人権を守るための行動力についての学習を具体的に進めるため、学習内容を明確にした人権教育カリキュラムの作成が必要である。
- 性に関する学習を系統的・計画的に進めるため、また児童生徒が学習した内容や理解度を保護者へ伝えるためにも、年間指導計画が必要である。

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
4 信頼される 学校づくり	<p>4 信頼される学校づくり</p> <p>(1) 学校の教育活動を広く知ってもらうため、授業参観を定期的に行う。学校ホームページや通信の発行など様々な媒体を活用し、学校の取組内容を広く保護者や地域へ発信する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業参観の実施 4回 (授業参観、運動会、文化祭) ・ 学校全体行事の様子をホームページへ掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実施済 授業参観3回 運動会1回 文化祭1回 合計 5回 ○ 実施済 14回 	※

	<p>8回以上</p> <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業参観後のアンケートにおいて、児童生徒の学校での様子がよくわかったと回答した保護者の割合 80%以上 <p>(2) 教職員としての専門性の向上を図るため、各自の課題に応じた研修を受講し、日々の教育活動へ活かす。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が関心のある研修を1回以上受講 <p>(3) 信頼される学校づくりを進めるため、「学校信頼向上委員会」を定期的に開催し、不祥事の根絶に向けて取組を進める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス研修の実施 8回 ・コンプライアンスミーティングの実施 2回 	<p>○ 達成 95%</p> <p>○ 達成 1人1回 済</p> <p>○ 実施済 10回</p> <p>○ 実施済 2回</p>	
<p>5 安全・安心な学校づくり</p>	<p>5 安全・安心な学校づくり</p> <p>(1) 児童生徒が自分の命は自分で守る力をつけられるよう、災害に備えた定期的な訓練を実施するとともに防災ノートを活用した学習を進める。また、災害が起きた際に教職員ができることを考え、実践する力を身につけるため、図上訓練を実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害を想定した引き渡し訓練の実施 1回 ・災害に備えた教職員研修の実施 1回 <p>(2) 自主通学を行っている生徒やスマートフォンを使用している生徒がトラブルにまきこまれないよう、テーマを設定した防犯教育等を実施する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室の実施 1回 ・スマホ安全教室の実施 1回 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室実施後のアンケートにおいて、危険回避の方法を理解したと回答した生徒の割合 80%以上 <p>(3) 危機管理に即した対応マニュアルの説明会や対応訓練を早い時期に実施し、安全・安心な学校づくりを進める。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救命法講習会の実施 1回 ・アレルギー対応訓練の実施 1回 ・てんかん発作時の対応訓練（スクールバス）の実施 1回 ・熱中症ガイドライン（事前の確認、発生した場合の対応）の確認 各学部1回以上 	<p>○ 実施済 1回</p> <p>○ 実施済 1回</p> <p>○ 実施済 1回</p> <p>○ 実施済 1回</p> <p>○ 達成 100%</p> <p>○ 実施済 1回</p> <p>○ 実施済 1回</p> <p>○ 実施済 1回</p> <p>○ 実施済 各学部1回</p>	<p>※</p>
<p>6 センター的機能の充実</p>	<p>6 センター的機能の充実</p> <p>(1) 広域な通学区域をふまえ、関係する市町と丁寧に連絡を取り合い、互いに共通理解のもと相談業</p>		

<p>7 働きやすい 職場環境づ くり</p>	<p>務を進める。 【活動指標】 ・各市町から依頼に応じた巡回相談の実施 80回 (2) 校内において、障がいの状態に応じたきめ細かな指導・支援を進めるため、セラピスト（ST）による児童生徒の観察及び指導・支援の助言を実施する。 【活動指標】 ・セラピストを活用した校内支援の実施 20回以上 (3) 特別支援教育のセンター的機能として、特別支援学校に携わる教職員対象のわかば教育実践研修会を進め、南勢地域の特別支援教育の専門性の向上に取り組む。 【活動指標】 ・わかば教育実践研修会の実施 4回 【成果指標】 ・わかば教育実践研修会後のアンケートにおいて、特別支援教育についての理解が進んだと回答した割合 80%以上</p> <p>7 働きやすい職場環境づくり (1) 年間通じて、「定時退校日」、「会議時間の短縮」、「部活動休養日の設定」に取り組む。会議・研修の持ち方を見直し、職場環境の改善を進めるとともに教職員のワークライフ・バランスを意識した職場づくりを行う。 【活動指標】 ・設定した日の定時に退校できた教職員の割合 (年 95%以上) ・予定通り休養日を実施できた部活動の割合 (年 100%) ・放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 (年 90%以上) 【成果指標】 ・時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 (年 0人/84人) ・時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 (年 0人/84人) ・1人当たりの月平均時間外在校等時間 30時間以下 (月 80人/84人) ・1人当たりの年間休暇取得日数10日以上 (年 84人/84人) (2) 居心地のよい職場づくりを進める。 【活動指標】 ・教職員交流会の実施 年1回 ・教職員満足度調査の実施 年1回 【成果指標】 ・教職員アンケートにおいて、「校務へのやりがい・楽しみ」を感じている教職員の割合 80%以上</p>	<p>○ 実施中 110回</p> <p>○ 実施中 40回</p> <p>○ 実施済 6回</p> <p>○ 達成 100%</p> <p>○ 達成 95%</p> <p>○ 達成 100%</p> <p>○ 未達成 86% (昨年度66%より改善)</p> <p>○ 達成 0人</p> <p>○ 達成 0人</p> <p>○ 達成 82人</p> <p>○ 達成 84人</p> <p>○ 実施済 1回</p> <p>○ 実施済 1回</p> <p>○ 達成 96% 回答率 85% 72名/84名</p>	<p>※</p>
-------------------------------------	--	--	----------

改善課題

<信頼される学校づくり>

- 保護者アンケート(学校評価)では、玉城わかば学園に期待する項目として、生活指導、進路キャリア教育、安心安全に学べる場の3項目があがった。多くの保護者より学校の教育内容や支援体制について高い評価をいただいた。教員不足について安全面や学習指導において不安があるとご意見をいただいた。
- 授業参観後の保護者アンケートでは、「児童生徒に合った教材を用意してもらっていた」、「授業内容を理解できていない児童生徒がいた」など、学習内容や教材について率直な意見をいただき、教職員の授業改善へとつながった。
- 信頼される学校づくりを進めるため、管理職のリーダーシップのもと定期的なコンプライアンス研修等に取り組んだ。
- 引き続き、保護者や地域から信頼され、安全安心な学校づくりを進める。
- 授業参観では授業の改善へつながるよう、実施後のアンケートの取り方を工夫する。
- 学校からの情報発信(ホームページやたよりなど)は、タイミングを逃さず旬な時期に発信できるよう見通しを持って計画的に進める必要がある。

<安全・安心な学校づくり>

- 玉城町社会福祉協議会と協力して図上訓練を実施した。避難所運営について具体的・実践的な体験ができ危機意識を高めることにつながった。
- 災害時引き渡し訓練では、災害時に迎えができない家庭を想定したサポート体制(宿泊の準備など)を整える必要があることが確認できた。
- 引き続き、地域と連携した取り組みを進める。
- 高等部生徒を対象とした防犯教育や消費者教育では、担当者が確実に進められるよう年間計画をたてる必要がある。

<センター的機能の充実>

- 地域の小中学校の教職員を対象に教育実践研修会を実施した。参加者より、児童生徒への声のかけ方、タイミング、課題設定の仕方、学習環境整備などについての具体的なアドバイスが、参加者にとって参考になったと好評であった。
- 特別支援教育コーディネーターの巡回相談は110回実施した。地域の小中学校、高等学校からは大変心強い取り組みで引き続き継続してほしいと要望があがっている。
- 引き続き、地域から必要とされるセンター的機能の充実を図る。地域の小中学校より通常学級の先生方にユニバーサルデザインの授業について研修を開催してほしいなどの依頼があるため、地域のニーズや状況を確認しながら進める必要がある。

<働きやすい職場環境>

- 教員アンケート(回答率 85% 72名/84名)では、96%の教職員が、学習指導や校務にやりがい、楽しみを感じながら業務に取り組んでいることが確認できた。また、総勤務時間では、「昨年度に比べると早く退勤できる日が増えた」と回答している教職員が92%であった。
- 総勤務時間縮減に向けて、朝の全体打合せを廃止し、ICT機器を活用した伝達周知を行った。会議は短時間で終了できるようスタンディング方式や対面での会議を減らすための書面会議を取り入れた。教職員が作成する資料は真に必要なもののみ限定するなど、業務の見直しを進めた。2月末現在、45時間を超えた時間外労働者はない。
- 教員アンケートにおいて、「情報共有」の課題が明らかになった。教職員が情報を共有できるような仕組みを検討する必要がある。
- 時間外労働時間の管理では、4月の新年度準備に業務が集中する傾向があるため、教職員が担う業務を明確にするとともに分担化を図る必要がある。
- 管理職がリーダーシップをとり相談しやすい職場環境づくり、ハラスメントのない職場づくりを進める必要がある。
- 令和7年度以降、度会特別支援学校の肢体不自由教育部門設置に向けた業務が本格化するため、今まで以上に各教職員の業務内容を確認しながら、学校運営を進める必要がある。

5 学校関係者評価

<p>明らかにった 改善課題と次への 取組方向</p>	<p><個別最適な学びの充実と教育課程の整備></p> <ul style="list-style-type: none">○教育課程の編成において「各教科等を合わせた指導」が中心となっており、教科を意識した授業づくりに課題がある。合わせた指導の形態で実施している学習は、教科として意識しているかが問われる。合わせた指導を否定するということではなく、きちんと説明責任をとれることが大切である。教科のなかでも、国語と算数・数学の力が大事である。国語は人とのやりとり、算数・数学は物とのやりとりを培っていくものである。教科別の学習充実を図るには、教育課程の編成を早急に見直す必要がある。○自立活動は教科指導を行うための基盤を養う大切な領域である。内容の充実を図るには学習グループの編成が重要である。どんなグループに編成するにも意図や目的があるので、工夫して対応する必要がある。 <p><キャリア教育の充実></p> <ul style="list-style-type: none">○「玉城わかば学園キャリア教育プログラム」の活用や就労に結びつく学習内容に課題がある。先進校の視察を行うとともに社会情勢や地域性もふまえた検討が必要である。進路の取組を整理し、地域へのアピールし理解啓発を図ることについて、必要性も含めて検討し、実施する場合は対象、目的などを明確にして進める必要がある。 <p><自己肯定感を涵養する教育の推進></p> <ul style="list-style-type: none">○交流及び共同学習では、互いの目的をしっかりと確認して実施する必要がある。居住地校交流では小学部低学年の保護者からは、もっと回数を増やしてほしいなど実践の成果に対する希望がある。一方、高等部の生徒のなかには、中学校時代の友だちと関わりたくないという思いを持っている生徒もあり、地域で自分らしく生活することを丁寧に伝えていく必要がある。○人権という視点では、「障害者虐待」などの研修に取り組んでほしいという意見をいただいた。 <p><信頼される学校づくり></p> <ul style="list-style-type: none">○保護者アンケートでは、多くの保護者より学校の教育内容や支援体制について高い評価をいただいた。『生活指導』や『進路指導』、『安全安心に学べる場』に対する期待が高いことが確認できた。引き続き児童生徒の様子を理解いただくために、保護者の学校への参画を促すとともに連携を図る必要がある。 <p><安全・安心な学校づくり></p> <ul style="list-style-type: none">○地域と連携した図上訓練を実施した。図上訓練を行うことで、避難所のガバナンス体制をどのように決定していくのか課題が明らかになった。講習会を受け、防災士のような資格を取得するとスムーズに防災対策を進められるのではないかと意見をいただいた。 <p><センター的機能の充実></p> <ul style="list-style-type: none">○小中学校への特別支援教育コーディネーターの巡回相談では、具体的で専門的なアドバイスは、小中学校にとって非常に心強い。ぜひ継続してほしいという意見をいただいた。地域の教職員が参加する研修会を充実したものとするためには、地域の小中学校の先生の困りごとを把握する必要がある。特別支援教育に携わる教職員だけでなく、幅広い参加の募り方や高等学校支援も含め検討する必要がある。 <p><働きやすい職場環境></p> <ul style="list-style-type: none">○時間外労働時間において、月45時間を超える教職員はいなかった。引き続き、総勤務時間の縮減をめざし、教職員が安心して働くことができ、心理的に安心した職場環境をつくる必要がある。
-------------------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>取組結果からの改善課題と学校関係者評価委員の意見をもとにした次年度に向けた改善策は次のとおりです。</p> <p>< 1 学習指導要領の指導内容の着実な実施 ></p> <p>(1)各教科の内容の指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領における段階及び各教科の目標確認(教職員研修) ・各教科の年間指導計画の見直し及び学びの連続性の確認(教職員研修) ・「知的障害者用教科書」を活用した指導の実施 <p>(2)教育課程の編成検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の「知的障害者教科書」の内容を確認(教職員研修) ・教育課程について早期の見直し <p>< 2 自立と社会参画を見据えた教育の充実 ></p> <p>(1)組織的・計画的なキャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業教育の在り方についての検討(教職員研修) ・小学部中学部の保護者を対象としたキャリア教育についての説明会を実施 ・先進校視察 <p>(2)交流学习の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副次籍についての理解促進(教職員及び保護者への理解啓発) <p>< 3 一人ひとりの自己肯定感を涵養する教育の推進 ></p> <p>(1)児童生徒が自分のよさや可能性の認識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部行事の充実及び具体的目標評価の設定 ・行事实施後の児童生徒の振り返りの設定 <p>(2)多様な仲間との協同</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事等における役割や係分担の設定 <p>< 4 人権教育の推進 ></p> <p>(1)人権カリキュラムの見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権カリキュラムの見直し ・人権カリキュラムを意識した学習の推進 <p>(2)いじめ防止委員会との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題、認知に係る研修の実施(教職員研修) ・いじめ防止強化月間の取組の推進(4月、11月) <p>(3)実践行動力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが人権について考える学習の推進 ・実践行動ができる力を育成 <p>(4)教職員研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虐待気づきリスト、子どもへのかかわり方に係る研修の実施(教職員研修)
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>取組結果からの改善課題と学校関係者評価委員の意見をもとにした次年度に向けた改善策は次のとおりです。</p> <p>< 1 児童生徒の安全・安心の確保 ></p> <p>(1)防災教育及び防災対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災ハンドブック及び防災ノートを活用した防災学習の実施(地震・風水害) ・危機管理マニュアルの点検・見直しの実施 <p>(2)防犯教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織的・計画的な防犯教育の実施 ・喫煙、薬物、飲酒、がんなどの健康教育の推進

(3)教職員研修の実施

- ・発作時などの緊急時対応訓練の実施(教職員研修)
- ・熱中症予防や事故防止に向けた研修の実施(教職員研修)

(4)食育に関する指導の充実

- ・給食週間の取組の推進

(5)健康や性に関する指導の充実

- ・命を大切にする教育の推進
- ・早寝、早起き、朝ごはんの推進
- ・喫煙、薬物、飲酒、がんなどの健康教育の推進<再掲>

< 2 特別支援学校センター的機能の充実 >

(1)南勢地域における特別支援教育の推進

- ・公開研修会の実施

(2)校内支援に係る体制整備

- ・校内支援体制の構築

< 3 学びを支える教育環境の整備 >

(1)教職員の資質向上及び不祥事の根絶(教職員研修)

- ・不祥事根絶研修としてミーティング及びコンプライアンス研修の実施(教職員研修)

(2)教職員の働き方改革を推進

- ・定時退校キャンペーンポスターの掲示
- ・行事の精選及び不要な資料作成の洗い出し

(3)保護者の学校参画への促進

- ・授業参観時における保護者アンケートの実施
- ・保護者アンケート(学校評価)の実施
- ・学校ホームページ等からの発信

(4)地域連携の推進

- ・地域イベントへの参加